



令和4年8月31日
第二管区海上保安本部

第151回水路記念日企画展 海図で見る～東北の港の昔と今～

第二管区海上保安本部では、9月12日に水路記念日を迎えることから、「海図で見る～東北の港の昔と今～」と題して東北歴史博物館において、第151回水路記念日企画展を開催します。

明治期の古海図や3D海底地形図などを展示するほか、最新の海洋調査技術を紹介するパネルなどを展示します。

○開催場所、開催期間

東北歴史博物館内エントランスホール（宮城県多賀城市高崎1-22-1）
9月6日（火）～9月19日（月） 午前9時30分～午後5時
（東北歴史博物館の休館日を除く）

○主な展示内容

- ・海洋情報部150年のあゆみ
- ・初代水路局長 やなぎならよし 柳 樽悦たけについて
- ・水路部元測量課長 たやまり さぶろう 田山利三郎博士について
- ・日本近海深淺図
- ・東北管内の主要港における海図の変遷
- ・明治期の古海図
- ・日本周辺3D海底地形図
- ・「海図150年の歩み～黎明から近未来まで～」のビデオ放映



初代水路局長 柳樽悦

○その他

- ・本記念展示の見学は無料です。
- ・来場の際には、東北歴史博物館が実施している新型コロナウイルス感染予防対策にご協力ください。

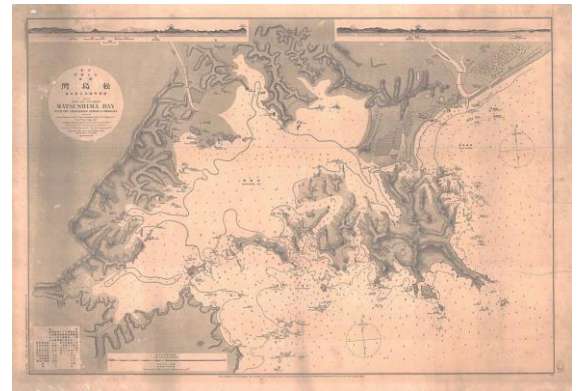
水路記念日

明治4年（西暦1871年）9月12日（旧暦7月28日）に兵部省海軍部に水路局（後の水路部、現在の海洋情報部）が設置されたことを記念してこの日を水路記念日としています。この水路局設置により我が国の本格的な海洋調査・海図作製が始まりました。※海図は、船舶が安全かつ効率的に航海できるよう、水深、暗礁などの水路の状況、灯台などの航路標識、船舶の運航に必要な情報を掲載している「海の地図」です。

展示パネル等一例

海図第151号 「松島湾」

この図は、明治16年（1883年）に発行された塩釜港や松島湾の描かれた最初の海図です。塩釜港は奈良時代、国府多賀城の製塩地として始まったと伝えられています。港の建設は明治15年（1882年）に始まり、縮尺は約1万8千分の1で、水深の単位に尋（ひろ）を用い、英国海図の図式によって、陰礁・海岸線・ケバ式の山容などで描画されています。



日本近海深淺図

水路部（現海洋情報部）の測量課長であった田山利三郎博士（宮城県村田町出身）が中心となって編集し、1952年（昭和27年）3月刊行された海底地形図。田山博士は、「日本近海深淺図」の解説論文を「水路要報」に掲載し、フィリピン海、北西太平洋の海底地形の詳細を説明しました。

この「日本近海深淺図」などを参考に、米国の海洋地質学者H.H. ヘスやR.S. ディーツが海洋底拡大説を提唱し、プレートテクトニクスに発展していきました。



日本周辺3D海底地形図

海洋情報部の大陸棚調査を主として500メートルメッシュで表現した海底地形図。赤、青の立体メガネを使用することで、地形を3次元的に迫力ある地形として見ることができます。

